



後援会だより

主役が大きく育つ環境を

学類長 入戸野 修

本学類はこの数年間に著しく急成長して来た。平成16年10月に福島大学の人文社会科学系の学域に新たな自然科学系の学域が加わった。翌平成17年4月に最初の学生を迎え入れ、平成20年4月には最初の卒業生を待たずに、大学院研究科修士課程を創設した。理工学系の卒業生に対して多くの企業が著しい科学技術の進歩に十分に対応できる実力を有する高度専門職業人を求めているためである。そして、平成21年3月にはじめての卒業生を送り出した。幸いに、本学類の就職率（進路先決定率）は全学でも最高であり、進路先の分布は大学院進学、情報通信業、製造業、公務員、サービス業、卸・小売業、教員、金融業、建設業、運輸業などで、学類の教育理念・目標に相応しいものであった。また、この間本学類の教育環境設備が整い、旧自然棟の改修による共生システム理工学類棟、学生の実験室の集まった7階建の研究実験棟が完成した。平成22年3月末竣工予定の大学院研究科の7階建の研究棟が建築中である。さらに、大学院博士課程の来春4月設置を準備中であり、本学類に入学した学生が大きく育つに十分な教育研究環境がほぼ備わったと言える。

素材の持ち味を生かして美味しい料理に仕上げるのは技術

者である料理人の器量にかかっている。大学の教員は喩えてみれば、人を旨く育てる技術者である。企業の技術者は欠陥品や不良品を世の中に提供したときには、社会から制裁を受ける。人を育てる教育に携わる者は、自らも絶えず切磋琢磨し、良い学生を送り出すことに常に真摯に取り組んでいく任務がある。

また、美味しい料理は良い器に盛られてこそ引き立つ。そうした意味で新しい教育環境整備が整いつつあることは大変に嬉しいことである。しかし、良い器も時には思い切った使い方や工夫をすることで料理の品格を格段に高めることができるものである。持てる教育環境設備をどのように工夫し活用するか、今までの体験・知恵を上手に活かしていきたい。長い間大切に使うばかりでなく、持てる機能性を遺憾なく引き出す使い方を絶えず考慮し、有効に活用してこそ教育環境設備の使命が全うされよう。

学生も教員も大学での学びを楽しむ生活が充実するように教育環境の絶えざる整備を図るとともに、築き上げた文理融合型の本学類の教育基盤に一層の磨きをかけ、社会から見て魅力ある高等教育研究機関として育て上げることが課題である。



一年生紹介

Aグループ

グループアドバイザー 小 沢 喜 仁

Aクラスの学生たちは、北は青森市から、西は岡山市まで個性豊かな人たちが集まりました。初顔合わせ時の委員選出においては、自発的な取り組みであったという間に委員が決まり、たいへん驚きました。互いに助け合いぶつかり合いながら、グループ調査研究などを通じて友情を築いている真最中です。それぞれのチャレンジ経験をクラスみんなで共有して、クラスを家族のようなよりどころとして学生生活を楽しんでほしいと願っています。



Bグループ

グループアドバイザー 浅 田 隆 志

Bグループは、県内出身者が8名、隣県の宮城3名、栃木2名、新潟2名、あとは青森、岩手、山形、千葉、長野、愛知からの出身者で、女性5名、男性16名の計21名からなります。

初めは、皆緊張しており、ほとんど会話もありませんでしたが、最近は、グループ内の雰囲気も明るくなり、まとまりがでてきたように感じます。

大学生生活は大変なことも多いですが、充実した毎日を送れるよう、サポートしていきたいと思っています。

Cグループ

グループアドバイザー 稲 森 悠 平

Cグループは全員で21人で積極性、協調性のある学生さん方です。福島大学の基盤を構築し、国際的知名度を上げられるよう頑張ってくださいという観点から講義していますが、真剣に取り組まれており、大きな期待が持たれます。大学生活を学問と趣味とを両立出来るようにサポートしたいと思います。



Dグループ

グループアドバイザー 永 幡 幸 司

Dグループは、21名中15名までが県内出身者で、他は栃木3名、青森、宮城、茨城出身が各1名ずつという構成です。

前期の教養演習では、数名のグループ単位で理工学類の様々な教員を訪れ、学問・研究についてインタビューをしてきました。どのグループも、長時間に渡って教員と話し込んでいたようです。今後の成長がとても楽しみな21名です。



Eグループ

グループアドバイザー 樋 口 良 之

東北地方、富山県、栃木県からの学生さんで構成しています。当初、担任の機械的な指名（笑）で、初対面の学生でペアを組ませたり、グループをつくったりして、制限時間内で考え発表する訓練をしました。そのため、早い時期から、誰とでも話せる環境ができ、いい雰囲気です。学生さんの提案で、後期の授業では、実際には販売しませんが、ふくしまの桃を素材にした産品づくりを行い、製品設計、原価計算、販売計画、販売促進を検討しながら、上級学年への飛躍をはかります。

Fグループ

グループアドバイザー 長 橋 良 隆

女性5名と男性16名の合計21名で、出身は福島県17名、宮城県3名、ベトナム1名です。若者らしく明るく活発な学生たちで、各種委員の決定も積極的な立候補で次々と決まりました。5月1日にクラス交流会、また、教養演習やサークル活動などを通じて、クラス内の交友関係も深まってきたようです。楽しいこと、悩みや苦しむこともあるでしょうが、いろんなことに興味と関心を持ち、着実に成長して欲しいと思っています。



Gグループ

グループアドバイザー 福田 一彦

福島県出身が8名、他の東北地域が6名、北関東が3名、その他の県が2名とベトナムからの留学生が1名。男女比は15:5。五十音順で決まるクラスですから、こうした構成比は、この学類の縮図なのでしょう。また、男子よりも女子のほうがはっきりして見えるのは「社会の」縮図でしょうか？教養演習の時間は（多少の遅刻などあったものの）全員が出席していましたし、問題なくすごしていました。グループディスカッションなどを見ると、ある程度の仲良しグループも出来たようで、ちょっとほっとしています。



Hグループ

グループアドバイザー 八代 勉

Hグループは県内だけでなく、愛媛、岩手、群馬、栃木、茨城の各県、更には中国から集まったメンバーで構成されています。最初は戸惑っていましたが、次第に余裕が出てきて、学業だけでなくサークル活動やアルバイトも含めて学生生活に慣れてきて、確実に成長しているようです。昨年のリーマンショック以来の不況の嵐の中、社会に出ても遅く生きていけるよう、時には厳しく、時には優しく見守ってあげたいと思っています。

Iグループ

グループアドバイザー 渡邊 明

福島大学に入学し、水を得た魚のように大学生生活を生き生きと生活している学生、学習に対する不安を抱えて、その克服に真剣に向き合っている学生、入った大学に不満を抱えて進路変更を考えている学生、大学に入ったのだからと適当にサボっている学生、各自それぞれのファーストセメスターを過ごしてきました。ここでファーストセメスターを省みて、もう一度入学時の初心と比較し、自分にとっての大学生活のあり方を考え、価値あるセカンドセメスターの過ごし方を計画して欲しいものです。



学生交流会



学業優秀者表彰



平成20年度学業優秀者表彰

1年

佐久間健太・安齋 洋行・千葉 史人・遠藤 美佳
小野結夏子・齋藤 春香・斉藤こずえ・内村 和彦
小野 正人・安濃 瞳・大野 亮平・常法寺孝秀
齋藤 充

2年

芳賀 友洋・高橋 純一・譲矢かずみ・八代 尚子
村上 俊政・築場真衣子・滝沢 桃花・大橋 亮太
北郷 孟・富田 恵・菅野 望美・中野渡 愛
八木真梨恵・吉江 崇裕・若曾根徹哉・阿部 勝
青沼 史高・中村 和由

3年

類家 翔・山田 道子・井石 雄太・播磨 耕祐
小森 信央・海上 未央・齋藤 貴博・藤田 麻衣
小西 航・森田佳保里・大石 紗希・滝田 光
皆川 絵梨・豊原絵美子・青木 春奈・大沼 亮
大内 拓哉

学生生活支援便り

共生システム理工学類学生生活委員会

紙面をお借りして、後援会の皆さまに理工学類の学生の動向、学生生活上の注意などをお知らせしています。

〔学生交流会と学生表彰〕

学生交流会が5月14日に学生会館2階で開催されました。この交流会は、同学年同士、上級生と下級生、学生と教員の交流を目的として毎年開催されているものです。食べ物や飲み物が用意され、学生の実行委員会が企画したイベントなどを中心に、楽しいひと時を過ごしました。また、その中で、昨年度の学業成績優秀者が各学年ごとに表彰され、賞状と図書カードを学類長より贈呈されました。交流会と学生表彰には、後援会から多大のご支援をいただいております、この紙面をお借りしましてお礼申し上げます。

〔インフルエンザ〕

全国的に新型インフルエンザの流行が懸念されておりますが、本学でも学生のA型インフルエンザ（新型かどうかは不明）への感染が確認されております。うがい・手洗い・消毒・マスクの着用等をしっかりして感染予防を徹底するとともに、もし、発熱や吐き気等の症状がある場合は、保健管理センターまたは医療機関に事前に電話で相談の上、医療機関

で診察を受け、診断結果を必ず学生支援グループまで連絡するなどして、集団感染を防ぐよう注意を呼び掛けています。

〔オリター制度の発足に向けて〕

現在、学生自治会が中心となって、理工学類のオリター制度（「リンク」という名称を予定）の発足に向けて準備を進めています。「オリター」とは「オリエンテーション・リーダー」「オリエンテーション・コーディネーター」「オリエンテーション・コンダクター」などを意味する言葉で、新入生が大学生活にスムーズに入れるように援助する上級生を指します。入学時のオリエンテーション等で教員と連携しながら新入生の助言や指導に当たる予定です。

〔大学へのご相談〕

学生生活に関わる様々な問題や心配事は、学生支援グループが窓口となって、相談を受け付けています。また、対人関係やメンタルな問題に関しては、学生相談室に専門のスタッフが常駐し、相談のつて来ています。場合によってはご家族の方との連携も必要かと思われますので、ご心配な場合はお気軽にご相談下さい。

連絡先：学生支援グループ 024-548-8028
警務員室 (024-548-8035) (土日等の休日、夜間)
学生総合相談室 024-548-5156

学 生 活

2年の後期から3年の前期にかけて履修するグループ活動（プロジェクト学習）の一環として、教育GPに参加した学生たちが、5月～8月にその成果発表を行いました。



5月17日
6月21日
7月19日
福島市産業交流プラザにて



7月25日
福島大学にて



8月8日
こむこむにて
ワクワクJr.カレッジ
サイエンス屋台村



動 紹 介

県内の科学館や公の施設、本学を舞台に、実演や展示で、各グループの取り組みを子どもたちや一般の方々に紹介したり、体験して頂きました。多くのことを学ぶ良い機会になったと思います。

7月15日

福島民友社
福島民報社にて



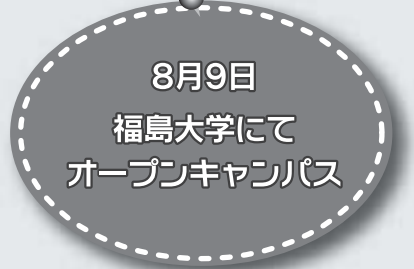
8月16日

スペースパークにて



8月8日・9日

ムシテックワールド
にて



平成20年度 卒業生の進路状況について

共生システム理工学類就職支援委員会

昨年度は学類初の卒業生を社会に送り出すと言うことで、期待と不安が入り交じった状況にありましたが、進路決定率が98%を超えて、全学類の中で最も高い決定率を得ました。今年度も、一層の充実を期したいとの考えから、昨年度の実績を整理し、分析しましたので、ここに報告いたします。

1. 新入生の進路希望の動向調査

本学は就職支援委員会がキャリア開発部門と密接に連携しながら、学生のキャリア形成やインターンシップなどの支援を実施し、入学時点から学生の進路動向調査を実施しております。表1はキャリア開発教育研究部門によって調査した新入生の動向調査で、平成16年4月、希望に燃えて入学してきた新入生に対して、同5月に調査した結果と、その後4年経過した平成20年8月に実施した結果を示しています。

表1から理工と全学平均では、1年生時の希望進路に殆ど差が見られませんが、4年生になった時点では大きく異なり、理工の場合、公務員や教員へ就職が少なく、大学院へ進学する割合が大きい事が分かります。

表1 一期生の希望進路の動向 (単位%)

	全 学		理 工	
	1 年	4 年	1 年	4 年
民間企業	23.3	54.1	27.5	56.2
公務員	38.3	15.8	34.3	8.6
教 員	22.9	18.2	28.4	8.6
大 学 院	—	9.4	—	22.9
そ の 他	15.5	2.6	15.5	2.8

2. 進路調査の実施と最終進路状況 (表2)

学生は3年生の後期から進路について真剣に考えはじめますが、理工の就職支援委員会としても、所属する研究室の指導教員の協力の下、進路状況の把握に努め、学生一人ひとりに対して、個別相談や支援を実施しております。

進路状況調査の結果を表2に示します。6月の希望調査の時点では民間企業の内定者以外に進路確定しているものはないので、希望する進路についての結果を示していますが、10月に実施した実績調査は民間企業希望者では内定式を終えたもの、公務員、教員および大学院希望者ではそれぞれの試験および面接合格者の割合を示しています。この時点での未定者は全体の21.7%でしたが、その後の頑張りで、最終結果での未定者は6.6%に減り、卒業する、しないにかかわらず、翌年に再チャレンジするもの(5.4%)

を除いた最終的な進路決定率は98.8%でした。

表2 進路状況調査結果 (単位%)

希望進路	希望調査	実績調査	最終結果
	(平成20.6月実施)	(平成20.10月実施)	
教 員	7.8	1.2	4.2
公 務 員	16.3	9.6	10.8
民間企業	50	45.8	49.4
大学院進学	24.1	20.5	27.1
実家跡継ぎ	0	1.2	1.2
その他(専門学校)	0	0	0.6
未 定	1.8	21.7	6.6

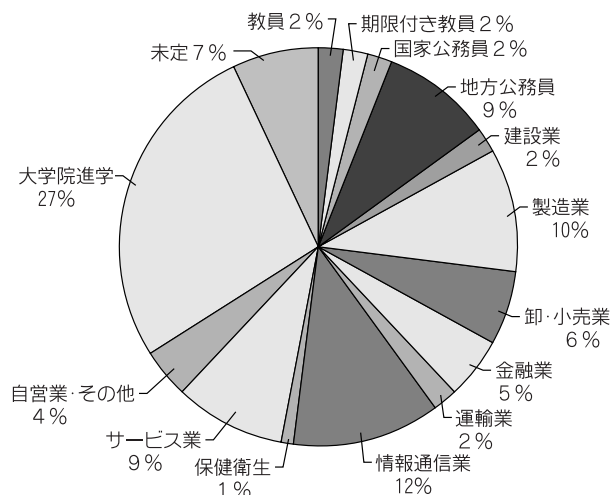
3. 就職先の内訳 (図1)

最終進路先の内訳を図1に示します。教員では、県内より県外の採用多く、近隣県や首都圏に就職先を求める傾向が強いようですが、競争率が高く、厳しい状況にあると言えます。一方、公務員では、福島県や県内の地方団体への採用が大半をしめていますが、国家公務員も採用されています。こちらも教員と同様、競争率が高く、早くから公務員講座を受講して、対策を講じている学生が多いようです。

民間企業への就職は全体の約半数を占めており、就職支援委員会としても様々な支援や情報提供をしておりますが、学生自らも積極的に企業説明会や会社訪問などの就活を行っており、それを反映して、大企業および関連企業への就職が14社と最も多く、また中堅や新興企業など様々な業種の企業に就職しています。ただ、地元企業への就職の割合が一期生への期待の大きさほどに実現しなかった点が今後の課題と考えられています。

大学院進学では、本学に修士コースが創設されて初めての卒業生を迎えるということもあって関心をあつめた結果、全学の中で大学院進学を選択した学生の割合が最も多くなりました。また、積極的に筑波大、東北大、名古屋大など他大学の大学院を希望する学生もあり、自らの努力で将来を切り開いている様子が感じられます。(以上)

図1 最終進路先の状況



「親のための就職セミナー」の開催について

- (主催) 福島大学就職支援委員会
(後援) 福島大学人間発達文化学類後援会, 福島大学行政政策学類後援会
福島大学経済経営学類後援会, 福島大学共生システム理工学類後援会

テーマ「福島大学のキャリア教育と就職支援について」

遠い昔、「大学は出たけれど…」と言われた時代がありました。今日、大学進学率が55%を超えるようになって、世の中の雇用情勢や働き方も大きな変化を示しています。1960年代から始まったとされる「キャリア教育」が、ここ数年急速に注目されています。

本学のキャリア教育は、入学後の大学生活の充実を第一の目標に、卒業後の職業生活も視野に入れた学生支援を目指しています。社会経済状況の変化や雇用問題が深刻化する中で、福島大学では学生の皆さんが大学時代を通じて、ひとりひとりが自らの人生を積極的につくりあげていく能力を高めていくことを願っています。今回のセミナーは、福島大学が全学的に取り組んでいるキャリア教育について紹介させていただき、いまどきの大学生の就職・職業意識などにも触れたいと思います。その上で、さまざまな不安を抱えながら就職活動に取り組んでいる学生の皆さんの様子やその背景にあるものをいくつか紹介させていただき、これからの就職支援の在り方について皆様とご一緒に考えたいと思います。

参加を希望される方は参加申込書にご記入の上、FAXまたは郵送で10月16日(金)までお送りくださいますようお願いいたします。

なお、当日は金谷川のキャンパスで「大学祭」も実施されております。併せてご覧くださいるようご案内いたします。

記

1. 開催日時 平成21年10月31日(土) 13時~14時30分 [参加無料]
2. 開催場所 福島大学共通講義棟 L-1教室 (福島市金谷川1番地)
3. 参加対象 福島大学の在学生の保護者の皆様
4. 開催内容 ①挨拶 清水 修二副学長(学務)
②福島大学の就職状況について 清水 修二副学長(学務)
③講演 五十嵐 敦(キャリア開発教育研究部門部門長 教授)
④質疑応答

[参考]

● 五十嵐敦氏のプロフィール

五十嵐 敦(1957年福島県喜多方市生まれ)

所属: 福島大学総合教育研究センターキャリア開発教育研究部門 教授(職業心理学)

1992年福島大学教育学部採用, 2005年から現職。日本キャリア教育学会(理事), 産業力コンサルティング学会(理事), 産業ストレス学会, 職業・災害医学会などに所属。おもに企業の人材開発や職場適応問題に取り組んでいる。厚生労働省・労働者健康福祉機構の産業保健推進センターおよびメンタルヘルス対策支援センターでの支援活動など

(申込先) 福島大学学生支援部門就職支援グループ 高橋喜一
〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
TEL 024-548-8108 FAX 024-548-8355

平成20年度共生システム理工学類後援会会計決算報告

収入内訳 (単位円)

科 目	予算額	決算額	比較増減額	備 考
繰越金	5,860,471	5,860,471	0	学生活動助成(36万円×6年)、福利厚生費(18万円×6年)、通信費(3万4百円×6年)等を含む
会費	3,600,000	3,850,000	△250,000	H20年度20,000×新入生190+10,000×編入生5
雑収入	0	9,348	△9,348	利息
収入合計	9,460,471	9,719,819	△259,348	

支出内訳 (単位円)

科 目	予算額	決算額	比較増減額	備 考
総会費	20,000	4,095	15,905	横断幕、資料印刷費等
役員会費	150,000	104,409	45,591	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	500,000	522,000	△22,000	幹事事務手当て 1,000/時 40時間/月 諸会費納入受付アルバイト
職員旅費	10,000	0	10,000	理事等の打合せ
事務費	100,000	32,501	67,499	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	780,000	663,005	116,995	
学生活動助成費	600,000	731,011	△131,011	学生の課外活動支援費、表彰制度:5000/人×40、学生交流会費:20万
就職指導対策費	200,000	52,498	147,502	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	267,065	32,935	会報年2回発行 発送費を含む
福利厚生費	1,100,000	520,000	580,000	アドバイザーグループ助成:1,000×180×4 卒業祝賀会:2,000×180
教育研究助成費	620,000	511,576	108,424	実施指導、実習指導助成、資格試験受験助成:3,000×100、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成:30万
小計	2,820,000	2,082,150	737,850	
予備費	0	101,000	△101,000	学籍異動に伴う返金 国立大学工学部系部長会議他
支出合計		2,846,155		

収入合計-支出合計=6,873,664円は平成21年度へ繰越

平成21年度共生システム理工学類後援会会計予算

収入内訳 (単位円)

科 目	本年度予算額	H20年度予算額	比較増減額	備 考
繰越金	6,873,664	5,860,471	1,013,193	
会費	3,600,000	3,600,000	0	5,000×180×4
雑収入	0	0		預金利息等
収入合計	10,473,664	9,460,471	1,013,193	

支出内訳 (単位円)

科 目	本年度予算額	H19年度予算額	比較増減額	備 考
総会費	5,000	20,000	△15,000	資料印刷費等
役員会費	130,000	250,000	△120,000	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	600,000	500,000	100,000	事務職員給与:50,000/月
事務費	15,000	100,000	△85,000	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	750,000	780,000	△30,000	
学生活動助成費	500,000	600,000	△100,000	学生の課外活動支援費、表彰制度:5,000/人×40、学生交流会費
就職指導対策費	50,000	200,000	△150,000	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	300,000	0	会報年2回発行 送料含む
福利厚生費	900,000	1,100,000	△200,000	アドバイザーグループ助成:1,000×180×4、卒業祝賀会
学類運営助成費	200,000	0	200,000	理工学系学部長会費他学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	900,000	620,000	280,000	実施指導、実習指導助成、資格試験受験助成:3,000×100、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成
小計	2,850,000	2,820,000	30,000	
支出合計	3,600,000	3,600,000	0	
予備費	6,873,664			学籍異動にともなう返金、学生活動助成:36万円×(1年+2年+3年) 福利厚生費(18万円×6年)、通信費(3万4百円×6年)等を含む
合計	10,473,664			

平成21年度 福島大学理工学群共生システム理工学類後援会役員名簿

【役員】副会長 遠藤 新一
副会長 富田 道夫
監査 菅野 毅
理事 高橋 薫
理事 小笠原 仁海
理事 斉藤 修

理事 高橋 健一
理事 菅野 浩子
理事 小野寺 京子
理事 丹治 峯人

5月に新会長の辞意を受け、臨時理事会で了承しました。
理工学類後援会会則第6条の(1)により副会長が職務を代理することになりました。

福大祭へお越し下さい！

◎第45回福大祭 本祭(一般公開)

場所:福島大学

日時:平成21年10月31日(土)~11月1日(日)

ステージ発表・模擬店・子ども向け企画・学外展示

お笑いステージなどを企画しています。

● ご意見・ご要望は下記共生システム理工学類後援会まで

● 事務局 〒960-1296 福島市金谷川1

● 福島大学理工学群共生システム理工学類内

● TEL&FAX 024-548-8176

● 学類のHPでさまざまな教育・研究をご覧ください。

● <http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>